

令和4年度（2022年度）  
審判員の目標

## 研究課題について

～モダンハンドボールの考え方から～



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

1

★ **安心・安全な  
ゲーム運営**



◆ **ハンドボールの概念**（レフェリーハンドブック P3）  
ハンドボールの競技規則の精神は…  
**相手の身体を傷つけることなく** である。

↓

8の4、8の5の適用  
**しかし、その前にできたことはなかったらどうか？**  
口頭注意、ボディランゲージなどで**予防**できることもある。  
（モダンハンドボールの考え方）

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

2

★ **言葉かけの工夫**

◆ **リーダーシップ、誠実さから発せられるべき言葉とは？**

「はい、入場して」	「ヘアにも伝えておくから」
「ポイント、ここだよ」	「ありがとう サンキュー」
「ユニホーム、つかまないよ」	「そのまま続けていいよ」
「先に位置を取ってしっかり止まっているからOKだよ」	
「Play on」	など…

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

3

**研究課題**



◆ **モダンハンドボールの考え方**については、  
**各連盟、カテゴリーの実態に応じて適用**

↓

- ・接触（違反）の**影響の見極め…ボディコントロール**
- ・得点の後、**GKスロー**、前半終了間際の**イエローカード**
- ・チームで3枚のイエローカード など

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

4

**研究課題**



◆ **スピーディーなゲーム展開**となるよう  
**競技規則を適切に運用し、試合を管理する。**

↓

- ・ゲームの流れを優先し、笛の数を減らす。ゲームを止めない。
- ・怪我をした**プレーヤー**への対応
- ・ゴールキーパー不在の状況での攻撃（特にターンオーバー時）
- ・モップのタイミングや**ボール交換** など

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

5

**スピーディーなゲーム展開を求める課題  
モダンハンドボールとの関連**

- 罰則の適用について、**オールド・スタイル**（6枚のイエローカードを適用し、基準を示すという考え方）が、未だに残っていること。  
**前半終了間際から後半については、**  
**身体接触に伴うイエローカードは適用しない。**
- シニア、大学のレベルでは、**罰則（警告：イエローカード）**の適用で、得点を取られた後の**クイックスローオフ**や**ゴールキーパー**スローを中断させてはならない。



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

6

**★ 試合開始15分で基準を示す**



- 予防的行動・コミュニケーション  
(口頭での注意、ボディランゲージ)
- 8の1(許される行為)、8の2(許されない行為)、  
8の3(罰則あり)の違いを**明確**に示す
- 8の4についての判定(開始直後であっても)

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

7

DFのコンタクトは、シューターに影響はない。  
罰則を適用してはならない。  
軽微な違反に対してイエローカードを適用し、  
**クイックスローオフの機会を奪ってはならない。**



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

8

ピボットは倒されてはいるものの、  
その違反に対する**影響はとても小さい。**  
アドバンテージを見て、**ゴールイン。**



ゲームの流れを優先。  
笛の数を減らす。  
ゲームを止めない。

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

9

**ゲームの流れを優先し、笛の数を減らすこと  
に重きを置いている。ゲームを止めずに、  
プレーヤーとコンタクトを取っている。**



※あくまでも警告に相当する場面  
→退場に相当する場面は、  
モダンハンドボールの  
考え方であっても、退場  
の判定をする。

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

10

空中のプレーヤーに対するこのようなブッシングには、  
必ず2分間退場の判定をしなければならない。  
ゴールインしたからOKではない。



退場に相当する場面は、  
モダンハンドボールの  
考え方であっても、退場  
の判定をする。

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

11

**スピーディーなゲーム展開を求める課題**

- 「怪我をしたプレーヤーが倒れていた  
(怪我ではないが倒れていることも含む)  
場合、速攻やクイックスローオフを中断させて  
はならない」という考え方が、チームに浸透して  
いない。  
(例え審判が、得点チャンスが消滅するまでその攻撃を認めて  
いたとしても、チーム側からタイムアウトを要求してくる。)
- ゴールエリア内の床が汗でぬれた場合、安易にモップを  
入れてしまう場面がある。ゴールエリア内は、反対側で  
攻防が行われている際にモップで拭くことを原則とする。  
また、ボールの交換についても安易に受けてはならない。**



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

12

## スピーディーなゲーム展開 負傷したプレーヤーへの対応

負傷したプレーヤーがいる

1st Ref. 『助けが必要ですか』

2nd Player 『はい』 → 『ゼスチャー15』タイムアウト  
『いいえ』 → 様子を見る  
(答えない) でも、立ち上がらない  
『ゼスチャー15』タイムアウト

※ 『ゼスチャー15』タイムアウト → Ref. 『助けが必要ですか』



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

13

## スピーディーなゲーム展開 負傷したプレーヤーへの対応

『ゼスチャー15』タイムアウト

Ref. : **必ず、最大2名のコート  
への入場許可をする**

負傷の原因として、相手に罰則が適用されていなければ  
そのプレーヤーはベンチに下がる(3回の攻撃)




Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

14

## ★ ゲーム展開の優先

たとえプレーヤーが負傷していてもゲームを**止めない**。  
しかし、更なるターンオーバーは**認めるべきではない**。  
(チームのモラルにも期待する)




Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

15

## ★ 負傷したプレーヤーへの対応 チームタイムアウトと同時

**映像例**  
フリースローの判定、プレーヤーの負傷 レフェリーが個人へ  
確認する前にTTO → **そのプレーヤーはTTO後も出場可能**

**その他に考えられること**  
フリースローの判定、レフェリーが負傷者への対応中に、TTO  
→ **TTO中の治療行為は認めるが、そのプレーヤーはTTO後出場  
はできない(3攻撃アウト) 不正なTTOの利用を避けるため**



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

16

**ゴールエリア内の床をモップで拭くときは、  
攻守が入れ替わり、反対のサイドに選手が移動してから行う。**  
(スピーディーなゲーム展開)



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

17

**ゴールエリア内は、危険と認めた場合のみ床を拭く。**  
※原則として、攻守が入れ替わり、反対のサイドに選手が  
移動してから行う。



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

18

ゴールエリアラインとフリースローラインの間等、特に**危険と認める場合は**、プレーを中断して床を拭く。



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

19

プレーヤーからの要求で**安易にボールの交換をしない。**  
(スピーディーなゲーム展開)



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

20

## 研究課題



- ◆ コーチ、プレーヤーとの**良好なコミュニケーションの取り方**
- ◆ ボディーランゲージ (Body Language) の仕方  
判断基準をもとに判定の根拠を、適切に口頭で説明できるようにする。
- コミュニケーションを積極的に行うレフェリーが増えた。
- ▲ 判定の根拠が不明確。

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

21

## 研究課題

- ◆ **判断基準をもとに判定の根拠を適切に口頭で説明できるようにする。**
  - ▲ 判定の根拠が不明確。
- 『あそこまでは許容範囲で?』  
『あれだけやると激しいです』



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

22

## ① ボディーコントロール

⇒ シュートを打ち切ったかどうか **影響は?**

もしも、ボディーコントロールを**失わずに**プレーできているならば...

- ◆ ゲームの流れを重視
- ◆ **安易に競技を中断しない**

7m スローの判定や罰則の適用 などにより

モダンハンドボール (ハンドボールの**面白さ**) を表現する

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

23

## ② プレーヤーへの影響

どの罰則を適用するかについての判断基準 (8:3)

- a) 違反行為をしたプレーヤーの **位置**  
・・相手に対して、正面?側面?後方?
- b) 違反行為が対象とした **身体の一部**  
・・胴体?シュートしている腕?脚?頭部?喉?首?
- c) 違反行為の **激しさの程度**  
・・接触の強度は?相手の動きの速さは?
- d) 違反行為の **影響**



Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

24

### ③ ボールに対するプレー

**防御プレイヤーの位置と防御行為**

- ◆ ボールを対象としていない
- ◆ 不利な位置から接触をした  
⇒ **ラフプレー** として判定  
(競技規則 8 : 2、8 : 3)

横から  
後ろから

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

25

- ◆ ボールを対象としていない
- ◆ 不利な位置から接触をした  
⇒ **ラフプレー** として判定

たとえ曲げた腕でも横(不利な位置)から

横から伸ばした腕で  
横から伸ばした腕で

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

26

- ◆ ボールを対象としていない
- ◆ 不利な位置から接触をした  
⇒ **ラフプレー** として判定

両手が顔に…  
2人がかりで…横から

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

27

### 研究課題

- ◆ コーチ、プレイヤーとの良好なコミュニケーションの取り方
- ◆ **ボディーランゲージ (Body Language) の仕方**

↓

プレイヤー、コーチ、観衆になぜそう判定したのかが伝わるように『大きく・はっきりと』判断基準をもとに判定の根拠を、適切に説明できるようにする。

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

28

### ボディーランゲージ (Body Language)

※視点…判定ではなくボディーランゲージ

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

29

### 研究課題

- ◆ ゴールエリアライン際の判定は、**全てゴールレフェリー**が判定できるようにする。

ただし、ゴールエリアライン際のピボットの攻防は、その攻撃形態に合わせ**ゴールレフェリーとコートレフェリーが連携し、管理**をする。

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

30

## 研究課題



◆ ゴールエリアライン際の判定は、**全てゴールレフェリーが判定**できるようにする。

ゴールエリア付近の  
 フリースロー 7mスロー  
 オフェンシブファウル など

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

31

## ゴールエリアライン際の判定 ゴールレフェリーが判定できるようにする



レフェリーの判定は正しい  
 レッドカードの判定は正しい  
 レフェリーの判定は正しい  
 レフェリーの判定は正しい  
 7mスローではなく、オフェンシブファウルが正しい

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

32

## 研究課題



◆ ただし、ゴールエリアライン際のピボットの攻防は、その攻撃形態に合わせゴールレフェリーとコートレフェリーが連携し、管理をする。

共同作業  
 フリースロー、オフェンシブファウル  
 ブロックプレー、ユニホームの掴み合い など

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

33

## ゴールエリアライン際 ピボットの攻防 ゴールレフェリーとコートレフェリーが連携



前半25分YC 連携 Good sample  
 OF Df 共にユニフォームを掴んでいる  
 オフェンシブファウル OFがDfのユニフォームを掴んでいる

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

34

## ★ ユニホームをつかむプレー

8の2(c) 相手が自由にプレーを継続できるような状態であったとしても、身体やユニホームを捕まえること。

8の3 明らかに（ボールではなく）相手の身体を狙った違反に対しては、罰則を適用しなければならない。

8の4 危険性を軽視した違反行為（b）捕まえ続ける

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

35

## ユニホームをつかむプレー ゴールレフェリーとコートレフェリーが連携



GRからは見えないかも…  
 CRの方が見やすい場合もある。  
 共同作業で管理する。

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

36

**ユニホームをつかむプレー**  
**攻撃側がつかむ場合も…**

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

37

**ユニホームをつかむプレー**  
**これがハンドボールというスポーツ!?**

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

38

★ **アクション&リアクション**  
**先に違反をしたのは…?**

**最初の違反(アクション)を見逃すことによって、  
 次の違反(リアクション)が起こる。**

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

39

★ **アクション&リアクション**  
**どうやって防ぐ…?**

- **ペアでの連携**  
 アイコンタクト・通信機器 など
- **プレーヤーへ伝える**  
 口頭・ボディランゲージ・笛を用いて

※防御側だけではない  
 近年では攻撃側の悪質な違反行為が増加

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

40

**今後に向けて**  
**審判員の判定(判断)基準の統一のために**

- 映像を用いて視覚的に理解を深めていく。
- 伝達手段としての講習会・研修会の在り方を検討する。YouTube等を活用し、浸透を図る。

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

41

**今後に向けて**  
**コーチ・プレーヤーへの理解のために**

- 連盟、ブロック、都道府県審判長によるチームスタッフやプレーヤーへの講習会(年度当初、大会代表者会議等)の実施。
- 試合中に審判員とコーチ・プレーヤーとのコミュニケーションによって伝えていく。
- 競技規則研究・審判指導委員の大会への派遣

Japan Handball Association / Playing Rules and Referees Commission

42



43